

第1回 日本漢字能力検定 試験問題

氏 名

〔不許複製〕

準1級

解答は、現代仮名遣いによるものとする。

解答は別紙(答案用紙)に書くこと。

(一) 次の傍線部分の読みをひらがなで記せ。(30)
1〜20は音読み、21〜30は訓読みである。

(10)
1×30

(二) 次の傍線部分は常用漢字である。
その表外の読みをひらがなで記せ。

(10)
1×10

(五) 次の傍線部分のカタカナを漢字で記せ。(40)
2×20

1 運動場に元気が横溢する。

2 智囊を絞って作戦を練る。

3 路傍に頁岩の石碑が傾いている。

4 漢字の一一に倭訓を付す。

5 いかにも惣領めいておっとりしている。

6 晃晃たるライトを浴びて舞台に立つ。

7 矢鱈と謬見が目立ち読むに堪えぬ。

8 弱小な生物ほど蕃殖する力が強い。

9 境内を神鹿が闊歩している。

10 雛妓のうちにみっちり仕込む。

11 甘藷は救荒作物として普及した。

12 晩年の作に醇乎たる詩境をうかがう。

13 鼠盗の仕業に相違あるまい。

14 被災者の賑救が吃緊の要務である。

15 いっしか而立の齢になっていた。

16 屢郵便物が濡滞した。

17 食糧難の時代に水団を代用食にした。

18 豆粥でひだるさをしのいだ。

19 私欲に駆られて瀆職罪に問われた。

20 娘子軍、意気高し。

21 叔父さんが来るといつも嘶をねだった。

22 海近くの山中に姥目樫が自生する。

23 田植えを前に畔塗りに汗を流す。

24 嫉妬の焰に己が身を焦がす。

25 田に水を漑ぐ時季になった。

26 黍餅の懐かしい味が口中に広がる。

27 国を治め人心を靖んじる。

28 人波が往来を杜いでいた。

29 夜の町に沫雪が降りしきる。

30 巖しい岩の壁がはだかる。

1 歴巡りて家郷に還る。

2 序でに一言釘を刺しておいた。

3 解し難い凝りが残った。

4 妊つて三月になる。

5 そのやり方で略間違いなからう。

6 稀少な古写本が残なわれ欠けている。

7 昔の好で力を貸そう。

8 手を束ねて見ている許りだった。

9 諸葛亮、字は孔明。

10 こうなったのは誰の過でもない。

(三) 次の熟語の読み(音読み)と、その語義にふさわしい訓読みを送りがなに注意してひらがなで記せ。(10)
1×10

〈例〉健勝……勝れる ↓ けんしょう
す ぐ

ア 1 蕪雑……2 蕪れる

イ 3 婉痛……4 婉む

ウ 5 曝涼……6 曝す

エ 7 幡然……8 幡る

オ 9 趨迎……10 趨る

(四) 次の各組の二文の()には共通する漢字が入る。その読みを後の□から選び、常用漢字(一字)で記せ。(10)
2×5

1 細部にまで(1)及する。

氏(1)の所(1)には首肯し難い点が多い。

(2)般は何かと御世話になりました。

(2)学の余薫を被る。

事件は異様な相(3)を呈してきた。

祖父には古武士の風(3)があった。

河(4)で渡し舟を待つ。

湖上交通の要(4)として栄えた。

人を嫉んで(5)心を抱く。

趣味が俗(5)で閉口する。

5 あく・い・しん・せん
はん・ふ・ほう・ろん

1 カラスが生ごみをアサる。

2 味つけに酒、シヨウウ、みりんを使う。

3 囲炉裏の上の天井がススけている。

4 数奇な運命をタドルことになった。

5 仏壇のイハイに手を合わせる。

6 レンガ造りのしゃれた家に住んでいる。

7 畑のネギが青々とよく育っている。

8 此の地で草刈りキコるべからず。

9 過剰な人員がトウタされた。

10 裏のササヤブで虫が集まっている。

11 万里のハトウを越えてゆく。

12 朝早くから市中をタクハツして回る。

13 観光名所のシヨウニウドウを訪ねる。

14 転売してリザヤを稼ぐ。

15 イツキクの涙を禁じ得ない。

16 降伏の勧告をシュンキヨした。

17 臆面も無くマカリ出た。

18 今や泥仕合いのカンを呈している。

19 宴を催し一夜のカンを尽くす。

20 カンを蓋いて事定まる。

準1級

解答欄を間違えないよう設問番号を確認してください。

(六) 次の各文にまちがって使われている同じ音訓の漢字が一字ある。上に誤字を、下に正しい漢字を記せ。

(10)
2×5

1 白昼衆人環視の中で耐え難い凌辱を受け終生忘れ得ぬ遺痕を抱いた。

2 車窓に昔乍らの藁屋根の民家が添綴する田園風景が見え、心を和ませた。

3 県北部に建設中の塵灰焼却施設が幾度かの工事中断を経て漸く竣工した。

4 些か蕪字を連ねて御二人の御成婚を慶祝する挨拶に代えたいと存じます。

5 政府の弱腰外交に憤激した人々が羽集し、各地で擾乱事件を惹起した。

(七) 次の問1と問2の四字熟語について答えよ。(30)

問1

次の四字熟語の(1～10)に入る適切な語を後の□から選び漢字二字で記せ。(20)
2×10

- | | |
|--------|--------|
| (1) 神助 | 輪廻(6) |
| (2) 迅速 | 魚網(7) |
| (3) 蜜語 | 動静(8) |
| (4) 満門 | 百尺(9) |
| (5) 瓢飲 | 生吞(10) |
- うんい・かっぱく・かんとう
こうり・たんし・てんげん
てんしょう・てんゆう・とうり
むじょう

問2

次の1～5の解説・意味にあてはまる四字熟語を後の□から選び、その傍線部分だけの読みをひらがなで記せ。(10)
2×5

- 1 落ち着きなくあたりをうかがうさま。
2 機が熟せば物事は自ら成る。
3 時に優しく時に厳しく接すること。
4 勢いが非常に盛んなさま。
5 幼児の仕業。転じて、幼児の義。

塗抹詩書・一張一弛・八相成道
旗鼓堂堂・東窺西望・旭日昇天
水到渠成・千錯万綜

(八) 次の1～5の対義語、6～10の類義語を後の□の中から選び、漢字で記せ。
□の中の語は一度だけ使うこと。(20)
2×10

対義語

類義語

- | | |
|------|-------|
| 1 奇手 | 6 消長 |
| 2 叛逆 | 7 根城 |
| 3 刹那 | 8 板行 |
| 4 剛胆 | 9 不公平 |
| 5 称揚 | 10 逐電 |

あくば・えいきよ・えいごう
がじょう・きじゆん・きようじやく
しゅっぱん・じようし・じようせき
へんし

(九) 次の故事・成語・諺のカタカナの部分に漢字で記せ。(20)
2×10

- 1 カネや太鼓で探す。
2 ジジヨの交わり。
3 ソウメンで首くる。
4 ジュウバを殺して狐狸を求む。
5 朝菌はカイサクを知らず。
6 天網カイカイ疎にして漏らさず。
7 天上の五衰人間のイツスイ。
8 禍福はアザナえる縄の如し。
9 エツボに入る。
10 キヨウゲンは徳の賊。

(十) 文章中の傍線(1～5)のカタカナを漢字に直し、波線(ア～コ)の漢字の読みをひらがなで記せ。(20)
2×5
1×10

A 第六十八段、大根が兵士に化ける話は少し怪しいが、次の六十九段と合わせて読んで見るとグワイを主として書いたものと思われる。迷信とは少し事変わるが所謂ゴシップの人を迷わす例がある。猫又のゴシップの力で犬が猫又になる話や、ゴシップから鬼が生まれてケイラクをかけ廻る話などがそれぞれある。勝負事を否定する(第百十一段)かと思つと、スゴロクの上手の言葉を引いて(第百十段)修身治国の道を説いたり、ばくち打ちのヒケツ(第百二十六段)を引いて物事には機会と汐時を見るべきを教えている。此の他にも賭け事や勝負に関する記事のあるところを見ると著者自身可也の体験があつたことが想像されて面白い。宿河原のほろほろの仇討ち決闘の話でも、我執無慙を非難すると同時に又「死を軽くして、少しもなすまざるかたのいさぎよさ」を讀えて居る。

(寺田寅彦「徒然草の鑑賞」より)

B 鳥島と裏浜とはあい距ること僅かに数町にすぎず、そのあいだ漣漪つねに穏やかなり、かつ遠浅なれば最も海水浴に適す。夏の暁、潮風涼しく、松の林の下道零るる露の滋きとき、三々また五々、老幼を問わず、男女を扨ばず、町に住める人々の争いて、浜辺に下りゆくを見る。清きうしおに漬りつつ、首をあげてまさに日の出でんとする方に向かえば、刃金、雷の聯互起伏する火山脈の極まるどころ、形塩尻のごとき浮岳はシコのあいだに聳ゆ——雲を被ぎて眠れるがごときもの漸く醒め来れば半面の微紅は万疊の波に映じ、朝霧のはれわたるままに、遠き海づらは水銀のごとく耀きて志摩半島の翠螺をのぞむ。また、徐に舟を遣り、やがて鳥島に纜を繋ぐ。鳥は周廻幾ばかりもあらぬが悉く岩石の累々たるのみ。堅緻なる火山岩は統ぶるものなくうち紛れたり、これとかれと互いに合わんとして曾て合わず、満ちし潮のいつしかその罅に溢れたるが、はげしき夏の日にあたためられ、ここに適度の温浴を供す。

(蒲原有明「松浦あがた」より)

氏名